



「やさしい日本語・わかる日本語」 を使おう・広めよう!!



1 ボランティア日本語教室

(*以下日本語教室) は

日本語教室は日本語を学びたい人を支援し、多文化共生社会推進の役割を担う活動を行っています。

学習者の国は様々です。日本語の初心者から不自由なく話せる人までが参加していて、特に会話能力の向上を望む人が増えています。

2 今「やさしい日本語」は

(1) 日本語教室での学習者との会話

初心者にはその人に応じた教材を用いて「やさしい日本語」の学習をサポートしています。こうした中で「やさしい日本語」での会話が生まれ、積極的に会話を望むようになります。

(2) 「わかる日本語」への取り組み

TNVNは「やさしい日本語」について、2010年10月に、各教室の学習者にアンケートをお願いしました。行政情報が多言語化される中、85%の人が“情報は分かりやすい日本語で書いてほしい”と回答しました。

2013年10月に「わかる日本語」研究会を発足し、わかりやすい日本語にリライトする目安・ポイントを作り、その成果を冊子にして配布すると共にTNVNのHPに掲載しています。

最近では“「わかる日本語」での会話”の目安作りを行っています。

(3) 行政・公共施設での取り組み・・・

多言語化と「やさしい日本語」

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、その際、外国人向けの多言語化された災害情報に加え「やさしい日本語」での情報が発信されました。

これを契機に多くの自治体で地震発生時の災害情報を「やさしい日本語」で発信する動きが出て、最近、一部の自治体では、生活情報が「やさしい日本語」版で発信されています。

(4) 外国人への依存

外国人観光客増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、情報の多言語化が進んでいます。

一方、産業界や福祉施設での人材不足が顕著となり、単純労働を含む外国人労働者を採用するための改正出入国管理法が今年4月から施行されます。

国会での議論や関係者から、外国人労働者の日本語能力が大きな問題となり、日本語能力N4以上が必要とされています。

「特定技能」の人々への日本語教育は公的機関・日本語学校で行うとされています。

(5) 日本語教室での学習支援は

日本語教室の大半は学習者の希望に添った学習支援を行っています。

しかし、入門・初級レベルの学習者への支援・対応は課題で、短期間・集中的な日本語教育が公的機関で実施されることが望まれます。

最近では技能実習生の参加が増えています。学習支援に何らかの対応がのぞまれます。

3 日本語教室の役割に日常生活でのコミュニケーションを

外国人が安心して生活できる多文化共生社会はお互いが「わかりやすい日本語」でコミュニケーションし、理解し助け合うことが大切となります。

私たちボランティアは教室内でももちろん、隣近所・街角・公共施設で「わかりやすい日本語」でのコミュニケーションを積極的に行うことが望まれます。

最近行った八王子市での講座”わかりやすい日本語で話しましょう“で、ワークショップを行いました。その際のアンケートに受講者から「これから外国人が多くなり、多文化共生の社会になっていくと思う。やさしい日本語でコミュニケーションをとることが大切になっていくと思う・・・」の感想がありました。

4 TNVNの取り組み

日本語教室の現状をみると教室の確保・資金の確保・人材の確保とボランティアの高齢化、適切な教材の不足など課題が山積しています。

今後もTNVNは会員の皆さまへの情報提供を第一に「わかる日本語・やさしい日本語」の普及に積極的に取り組んでいきます。

(文責・梶村)



情報の受・発信の今後を考える

2018年度第2回運営委員会から

2018年11月16日、東京ボランティア・市民活動センターで開催された運営委員会では、【25周年を迎え、改めてTNVNのありかた・役割・活動を考える】をテーマとして、2019年度以降の活動について貴重な意見交換・討議がされ、TNVNの活動の中で重要な位置を占める「情報の受・発信」が中心議題となりました。

●ネットワークニュースの現状と今後

＜現状＞

ネットワークニュースは、1年に4回、1回ごとに1500部を発行していますが、現在、発行・発送に要する費用は、1年分の会費収入を超過しており、会計は赤字になっています。

ボランティアでレイアウトをしてくださっていたかたが100号をもって引退され、101号から業者にレイアウトを依頼しています。このため、季刊発行経費だけで会費収入を超えるようになりました。現在、繰越金で補填していますが、現状を維持することが困難になってきています。

レイアウトをボランティアでくださる方を募集していますが、まだ見つかっていませんし、発行部数を減らしても、発行に関する費用はあまり安くないことや、今後、宅配便の値上げが予想されることも考慮する必要があります。

＜解決策は？＞

赤字解消の解決策として、役員会からの提案は、インターネットが普及し、メールで連絡を取り合う会員が多いことから、ネットワークニュースをメールに添付してはどうか、TNVNの大切な役割である「日本語ボランティア活動に関する情報発信機能」を維持していくために、紙媒体での発信ではなく、ネット配信に徐々に切り替えていくことを検討する時期に来ているのではないかというものです。インターネットを利用していない会員がいることから、紙媒体を全てやめることは出来ないだろうし、会員以外の方々にTNVNの活動を知っていただくには紙媒体も必要と考えています。

さらに、現在の3か月ごとの発行では、情報を迅速に伝えることができないとの観点からインターネットのさらなる活用が必要ではないかということも提案理由です。

これに対しては、運営委員から「ホットな情報ばかりが必要とされるわけではないのでは？」とネットワークニュースの役割は何かを改めて問う意見が出されました。

＜アンケート＞

いずれにしても、「ネットワークニュース発行の現状と課

題」について会員に理解していただくことが重要であり、近々、ネット配信の可否を含めてアンケートを実施すること、役員会は、その結果を踏まえてネットワークニュースの今後を検討し、会員にさらなる提案をすることが運営委員会で確認されました。

●ホームページの活用

HPの「日本語教室ガイド」は、教室検索に大変役立っていますが、HPのさらなる充実・活用には人材と費用が必要であり難題となっています。HPの管理人とも話し合い、TNVNスタッフや会員がタイムリーに情報を掲載したりできるよう、今後模索していきます。

●ブロック制

役員と会員との距離を縮める一つの方法として「ブロック別に集ってもらい小さいグループで話し合いをしてはどうか」との提案は、各ブロックで会員を集める役割を担う会員を見つけることが難しいし、会員を集めることが大変で、ほとんど意味がないとの意見が多く、白紙に戻りました。

2018年1月に開催された「25周年を祝う新春の集い：狂言の鑑賞・体験」には多くの参加者があったので、そのような楽しい企画がまたできると良いが、費用・手間が問題です。

●特定技能資格・技能実習生

「出入国管理及び難民認定法（入管法）」の改訂で、技能実習生制度を残したまま、「特定技能資格」が創設され、外国人労働者をたくさん受け入れることになるようです。TNVNは、今後の推移を注意深く見守っていき、ボランティア日本語教室がどんな影響を受けているか、どのような対応をしているかなど、情報を収集して会員にお知らせします。

TNVNでは会員の皆さまが、興味・関心を抱いている、時期を得た企画を提案していきたいと考えていますので、ご意見・ご希望などお寄せください。

(文責・岡田)

紙 上 教 材

はな み

お花見

日本の国は桜です。3月の中旬になると、九州や四国で桜の花が咲きます。東京では3月の終わりごろ桜の花が咲きます。青森や函館ではゴールデンウィークのころに桜の花が咲きます。根室や釧路では、5月中旬ごろに桜の花が咲きます。南(九州)から北(北海道)へ、順番に桜の花が咲きます。「桜前線が北海道まで来た」と言います。桜前線と一緒に旅行すると、長い間桜を見ることができます。

東京では、毎年、気象庁の人が、靖国神社の桜の花を調べて、「桜が咲いた」と発表します。



桜は三分咲き、五分咲き、七分咲きになって、一週間ぐらいで満開になります。それ

から一週間ぐらいで、花吹雪になって散ります。桜は咲いてから二週間ぐらいで全部散ります。日本人は咲いてから二週間ぐらいで散る桜が好きです。

日本人はお花見が好きです。桜を見ながら歩きます。また、夜の桜はとても美しいです。桜の下で、家族や友だち、そして、会社の人たちが、一緒に食べたり飲んだりします。とても楽しいです。「花よりだんご」です。

東京には、お花見の場所がたくさんあります。上野公園、千鳥ヶ淵、靖国神社は特に有名です。梅や菊を見るのはお花見と言いません。最近、外国からお花見に来る人がたくさんいます。

桜は見るだけじゃありません。桜湯(お湯の中に塩漬けの桜の花が入っています)を飲んだり、桜餅の桜の葉を食べたりします。皆さんのお国の花はなんですか。お花見をしますか。



TNVN「わかる日本語」研究会

「普通」や「標準」はない！

ダイバーシティのお話 その2

日本語教師 金子広幸

紙上
講座

前号では、中国語の借用語のことを書きました。カタカナ語が変だと“責める”日本語学習者の立場に立つ、というのがテーマです。また「マ●Donald」の話の続けましょう。

「ハングルでは外国語の発音を忠実に表すことができるんです」と得意げに語っていた韓国の学生の口からも、いかにも韓国語らしい発音で「へんぼご」と言われて、私たちのよく知っている食べ物のことだとわかるまで時間がかかりました。・・・責められませんね。

モスクワに行ったとき、おなじみ「マ●Donald」の赤い看板の、初めてみるロシア文字の「Макдональдс」を読んで店に入り、メニューの「Гамбургер」を一生懸命読んでみたら、「ガンプルゲル」でした。そうしたら、一人笑いが止まらなくなってしまうました。・・・なんでこうなったの？と言いたかったのですが、誰も責められません。

答えはどちらも「ハンバーガー」のことです。

もちろんカタカナ語の不思議さは私も同感ですが、日本人たちは、なぜか「カタカナ英語はだめ」と刷

り込まれていて、どこか謙虚に？開き直っています。その点、日本語学習者は、自分のは正しいと思っているようで、その頑なさにびっくりすることもあります。

ロンドンという英国の首都の地名は、フランス語では「Londres」と書いて「ろんどへ」と呼ばれています。一方英国の人はフランスの首都、花の都Parisを、フランス語のように「ばひー」とは発音せず、「パリス」などと言っているわけです。・・・これもまたどちらも責められないし、事実この二つの言語は責め合っていない。

ある村から見た「西山」は、その西山の西側にある村からは「東山」と呼ばれているわけで、どちらから見たほうが正しいという見方は存在しないはず。

では、それは、誰が決めているのでしょうか。

占領統治下の日本には「カスリン台風」と言うのがあったとか。祖母によくその話を聞きましたが、私は台風が^{かすり}紺の着物を着ているような錯覚を覚えました。そして、後になってからそれがCathrineだったことにも、金子少年は驚きました。

まずは「時代」という大きな要因がありそうです。

以前台湾人の友人と台風をどう呼ぶかで論争になりました。日本語では「人に災禍をもたらすものに人名をつけるのは良くない」とだれかが思ったのか、1号2号と呼んでいま

す。気象学では「アジア名」というのがあって、台風が訪れる地域のアジアの言語の中から言葉が選ばれたりしているようです。普段人名で呼び習わす台湾では、2018年の23号から25号までをそれぞれ、「燕子」「潭美」「康芮」と人名で呼ぶのです。日本でもそれに倣って、「ひろゆき台風」・・・「れいこちゃん」「あゆむくん」などと呼ぶことにしたら、呼ばれた本人は気になるでしょう。

「社会通念」も関係しそうです。

何を大切にするかは、時代やその社会の文化背景や価値観も、またリーダーの意向も反映されます。そして、標準化が求められる時もあります。ただ、それは時に画一化や排他性・無理解を生みます。

日本は文明の夜明けから、中国語の影響を受け、漢字の概念を深く理解し、それを自らの言語の根幹に据えてきました。また日本は受けるだけでなく、幕末から明治・大正にかけて、西欧の新しい概念を漢字で自国語に置き換えることに成功し、「哲学」「経済」「共和国・共和制」など字音語や、本来訓読みの「手続き」「^{はがき}葉書」などの言葉をアジア諸国に『輸出』していきました。だから日本語・中国語には確かに共通の言葉・概念があります。でもびっくりするほど意味やニュアンスが異なっている時もあるのです。「ピクニックの場所、よく検討してから決めよう」と話すと、中国語話者にはとても滑稽に聞こえます。中国語の「検討」は「自己反省する」という意味だからです。

(8頁につづく)



ペルーの食べ物と 遺跡文化で世界の未来を

グティエレス・ホレヘ
NPO法人IWC国際市民の会(品川区)

こんにちは、私はグティエレス・ホレヘと申します。アンデス山脈の中でも最も大きな街のひとつ、ペルーのワンカヨで生まれました。標高3259メートルという高い場所ですが、世界のどこにでもありそうなふつうの街です。5歳のときに首都リマに移り住みましたが、毎年夏休みには、たくさんのおいしい食べ物があるワンカヨで過ごしました。そして、いつも近くの祖父母の農場に遊びに行っていました。そこでの何よりの楽しみは、家族総出で作る特別なお料理です。材料は、農場からの採れたてのポテト、ソラマメ、トウモロコシ、ロコトとよばれるペルー唐辛子、その地域でしかとれないちょっと苦い葉もの野菜、そこにマトン、ラム、チキン、モルモットも加え、「ファンティア」とよばれる伝統的な方法で料理をします。

やり方は、まず地面に鉢状の穴をほり、その上に溶岩をドーム状に積み上げて窯をつくり、薪を入れて火をつけます。溶岩と地面が十分に熱せられたら薪を取り出し、溶岩をくずしてこんどは熱い地面に鉢状に並べます。その熱い溶岩の上に、マリネしておいた肉、野菜、ポテト、豆類を順に重ね、最後に「マルマキージャ」という香りのいい葉で覆い、さらにその上から布と土をかぶせます。こうして、溶岩と地面の余熱で2時間ほど蒸したら、できあがりです。肉は表面がカリカリで中はとってもジューシー。野菜もふっくらとやわらかく、マルマキージャの香りがうつり、塩だけでたいへん美味しくなるのです。



「ファンティア」にかぎらず、ペルーにはインカ帝国のころからほとんど変わらないまま受け継がれてきた調理法がいくつもあります。このような伝統に触れるたび、私は、インカの文化はいまでも生きています。もう少し例をあげれば、ポテトや「キニーネ」

というマラリアの特効薬など、インカの文化は、いまでも広く世界に影響を及ぼし続けていると思います。

キニーネは、歴史の本によると、スペインの神父が発見したそうです。中米のインディアンが「キーナ」と呼んでいたマラリアのクスリがシンチョナの木の新皮であることを発見し、この治療薬を使ってシンチョン市長やペルー総督の妻を、当時「伝染性貧血」と呼ばれていたマラリアから救いました。キニーネは、歴史を通じて世界の何百万人もの患者を死から救いました。

そしてもうひとつ、私の大好きなアンデスのポテト料理を紹介します。チューニョ・コン・ケソと呼ばれるその料理は、チューニョとよばれる乾燥ポテトにチーズをはさんだシンプルなものですが、とても美味しいのです。アンデス地方の農夫たちは日照りや凍土に強く、標高3800メートルでも育つ作物を開発してきました。このような過酷な場所で育つある種のポテトを、零下と直射日光にさらして作られるチューニョは、何年もの保存に耐える保存食になるのです。

同じ種類のポテトが、NASA（アメリカ航空宇宙局）やCIP（国際ポテトセンター）、そしてS.E.T.I（地球外知的生命探査）で、火星で育つかを見極める実験に使われています。そして、その調査結果から、ポテトが世界的な食糧難を救う可能性をもっているという嬉しいニュースがもたらされています。

ペルーは、単に「インカ帝国の遺跡をもつ国」ではなく、遺産によって世界の未来を築くことを考えるための、とても貴重な国なのです。



■ 小さな一歩を踏み出しました

中学生・高校生のための日本語教室 (北区)

佐久間雅子

みなさま、はじめまして。「中学生・高校生のための日本語教室」は、昨年の10月に出来たばかりの新しい教室です。日本で暮らす外国出身の若者たちが、言葉の壁を乗り越え自信を持って生きられるようになること、将来に希望を持てるようになることを願って、日本語教師仲間が始めました。毎週木曜日の夜に北区の赤羽会館で活動しています。

学習者は教室の名前のとおり中学生と高校生です。学習内容は、学校の授業や、高校や大学などの入学試験を意識して、会話練習のほか文法や読み書きにも力を入れています。宿題やテストもあり、ボランティア教室のなかでは「がっつり」勉強しているほうかもしれません。十数人も入れればいっぱい

になってしまう小さな部屋のなかで、少人数の学習者とスタッフが勉強しています。

学習者と接するうえで気を付けているのは、「彼らの主体性をどうやって引き出すか」ということです。外国から来た彼らにとって、日本社会で生きることや、そのために日本語を習得することは決して簡単なことではなく、それらのことを成し遂げるには、彼らが自分の意思を持ち、その意思に従って行動できる強さを身に付ける必要があるのではないかと私は思います。それで、この教室では、スタッフが学習者に指示を出すことを出来るだけ控え、自分の行動については自分自身で考えて決めるよう彼らに促しています。しかし私たちの意図はなかなか伝わらないようで…どうしたらいいのだろうと悩みながら試行錯誤しています。



この教室はもともと中高生の「学習支援」が目的でした。しかし最近は「学習以外の支援」も「学習支援」と同じくらい大切なのだと思うようになりました。また、学習者を多面的に支えるために、教室の外にいる方々とのつながりを大切にしたいという思いが強くなりました。今後、TNVNを通じて他の教室で活動されているみなさまと親交を結べたら嬉しいです。どうぞよろしくをお願いします。

会員団体紹介

Nice to Meet You

nice to meet you

■ 社会・ビジネス経験が豊富な講師と日本語・日本社会について学ぼう

しば日本語クラブ (港区)

今村幸雄

「しば日本語クラブ」は、シニア世代の生きがい作りと社会貢献活動のサポートを基本理念とする特定非営利活動法人(NPO)新現役ネットの活動の一つとして、2017年5月よりJR田町

駅から徒歩2分の同法人会議室で開催しています。開催日は、毎月第2、第4水曜日(18:30~20:00)と土曜日(13:30~15:00)。

当クラブの特徴として、海外駐在、国際交流、ものづくりや日本語講師経験者など豊富な社会経験を有するシニア人材が講師となり、主として外国人就業者を対象に、日本の文化、経済、産業・技術、生活習慣、ビジネスマナー等の理解を深めつつ日本語を

学んでいただくことが挙げられます。2018年度の学習者参加人数は延べ309名で、国籍は中国、韓国、ベトナム等14ヶ国にわたります。現在、14名の講師が在席し、毎回講師1人当たり1~3人の学習者を担当しています。少人数のグルーピングによって、学習者一人一人のレベルやニーズに応じた指導を行っており、教室はいつも和気あいあいと楽しい雰囲気の下で運営されています。尚、当クラブの活動を対象として2018年度の「東京都在住外国人支援事業助成」の募集に応募したところ、東京都より助成対象事業として認定されました。



学習者の声

多摩市の日本語

教室にこうして

岩崎ハエリヤニ／インドネシア
多摩市国際交流センター日本語教室

約10年間の海外生活後、私は2015年の終わりに日本に戻って来ました。TIC日本語教室で3年弱日本語を勉強しています。3年間弱勉強して、ひらがな、カタカナ、たくさんの漢字の看板やテレビニュースなどを読めるようになりました。単語の数が増え、気持ちも良くなって、コミュニケーションは再びスムーズに始まりました。

私は、毎週日曜日の夜を楽しみにしています。なぜかという月曜日は、TIC日本語教室へ行くからです。広くてきれいなパノラマ教室で50人以上のさまざまな国籍や、さまざまな年齢の人と一緒に日本語を勉強しています。1つのテーブルに4つの椅子があり、1人の先生が教えます。これは、個人的に学ぶとてもいい方法です。年間3000円の会費を支払います。

たとえば、さくぶんの宿題をもらった時、毎日家事が終って夜までパソコンで、ねっしんにグーグル訳語を使って一つ

つ表現したい文字を調べて、インドネシア語から日本語、英語から日本語へ直します。ただし文章になれば私はものすごくうれしいです。

私は、月曜日がまてないくらい先生にさくぶんを見せ、ご意見を聞きたいんです。今まで私は6つのさくぶんを書きました。いっしょに勉強する友達が休みの時、私は先生と会話をれんしゅうします。

TIC日本語教室からたくさん情報を頂きました。例えばTICのニュース（お知らせ）は日本語と英語で書いてあり、日本の文化を学ぶことができました。いろいろな会で私は多くの人と出会い、多くのトピックについて話しました。

今後3年間で私の日本語は、どれくらいの進歩できるかを楽しみにします。



ボランティアの声

曾原美佐子
多摩市国際交流センター
日本語教室

学び合う楽しさを感じながら

多摩市国際交流センター（TIC）は発足から25年、当初からわたしはボランティアとして日本語を教えています。

十数年前、韓国から日本の大学に二年間研修で来日したSさん。研修の合間にTICで日本語の勉強を熱心に続けられました。週に一度か二度、二時間ほどの学習でしたが私たちがSさんから韓国のお国事情などを上達する日本語でたくさん知ることができました。帰国してもソウルから日本語で書かれた美しい新年のカードが今年も送られてきました。

「日本語まだまだですので、恥ずかしいです」なんて言葉が添えられていて、思わず「そんなことないです。忘れずいてくださり嬉しいです」と、カードを読みながらつぶやいてしまいました。

ボランティアにとって日本語を教えるだけでなく、学習する外国の人々から多くを学び、貴重な経験が蓄積されていく気がするのです。

以前にはあまり馴染みのなかった南アフリカやモロッコのアフリカ勢に、日本の禅

寺で一年間修行してから教室に入ってきたフランス人など、なかなか興味深く、新鮮な空気が教室にながれています。世界が狭くなり、決してメジャーではなかった日本語が多く外国人にとってアニメをはじめとする日本の文化に生活、技術を知るツールになってきていることは間違いではないようです。

よくぞ日本語を学んでくれて、また熱心に学習した日本語でお国の事情や、世界のことを私たちは学習者から学ぶことができることに感謝です。

ことばを通してお互い理解、知識を深めることはなんと楽しいことでしょうかと日々感じるとともに、これからもボランティアの力がおいに役立つことを願っています。



◆紙上講座 (4頁から続く)

こんなときどうするか。お互いに「違いを気遣う」ことが大切なのです。私は個人的には「違いを認める」ではないきがします。認めるには「上からの目線」があります。

今、伝統保守派だった日本社会では、「ダイバーシティ・・・あらゆる価値観が認められる社会」への理解が進んでいます。いろいろな文化背景の人が集まっていたら、「浦島太郎みたいな話」などとハイコンテクスト（高文脈：話者も聴者もわかっていることが前提に話が進められる状況）で言わないで、「遠いところに行っている間に、自分の場所が変わって、居場所がなくなってしまったんだね」などと、ロウコンテクスト（低文脈）で噛み砕いて進めていきたいところですね。ちょっと日本人には面倒だけど・・・。

●TNVN 第26回総会及び特別講演会を開きます。

1.日時 2019年4月21日(日) 午後1時～午後4時30分 受付：午後0時45分開始

2.場所 東京ボランティア・市民活動センター A会議室
新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザビル 10階

3.次第

(1) 第26回総会 午後1時～2時

- ① 2018年度活動報告・会計報告
- ② 2019年度役員選出
- ③ 2019年度活動計画・予算案

(2) 特別講演 午後2時15分～午後3時15分

講演者：文化庁国語課日本語教育専門職 北村裕人氏
演題：外国人への日本語教育施策について(仮)

(3) 情報・意見交換会 午後3時30分～午後4時30分

総会案内を別途同封します。多数の方々に参加をお待ちしています。

column

「日本語学習支援は第三ステージに」

私の持論です。大戦後から80年代の半ばまでは外国人と言えば在日韓国・朝鮮の人々を主に、加えて微々たる国費留学生・研究者達が自国と日本を結び懸け橋となるべく来日。その数殆ど変動なくおよそ60万人強。そして、高度経済成長を成し遂げた日本を目指す今までと違った層「ニューカマー」の到来。私費留学生・世界各国から集まるビジネスマン・日系ブラジル人…。日本語学校が各所にでき、外国人が目立ち始め、そして、日本語ボランティアが存在力を示し始めた時が第2ステージ。来日が個・企業に直接的な大きな益を齎すと信じ、日本社会もそう信じまし

た。時は移り90年代にバブルが弾けると、逼迫した日本経済の空白の20年を経て、日本社会を新たな社会問題：少子高齢化が直撃。日本人の手だけでは社会を支えていけない日本社会の構造が今外国人に救いを求め始めたのです。一連のEPA(経済連携協定)の看護師・介護福祉士・技能実習生・そして4月1日施行の「特定技能」の人々がこれです。日本語支援活動も、この第3ステージに突入し、上から目線で「教えてやった」時代は過ぎ、今「支援してもらうために日本語を支援する」時代となりました。

(中山 真理子)

◆主な来客

- ① 江戸川総合人生大学 地域デザイン学部国際コミュニティ学科14期生 阪本謙二さんほか5名
・日本語ボランティア活動の現状について
- ② (株) 虎玄 (虎屋グループ社会貢献室) 2名 TVAC2名同席
・ボランティア日本語教室で日本文化(お茶と和菓子)を紹介する場が出来ないか

◆募集中 ニュースレターのレイアウト

レイアウトをボランティアでお手伝いして戴ける方を募集しています。現在発行している紙面を参考にして下さい。



TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線)出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員数 (2019年1月31日現在)

正会員：89団体

個人協力会員：15名

賛助会員：3団体

◆編集／大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 真理

◆レイアウト／美巧社